

# 『協同の理念に基づいたアクティブラーニング型授業づくりの方法』

激変する社会を生き生きと生き抜いていく子供を育てるために

一般社団法人 日本青少年育成協会

※この講座のルール 未来の宝を育て支える教育者として安心と信頼の場を保つために

- ①お互いの話をよく聞く(傾聴姿勢・評価を脇に置いて、受け止める。ペーシングしながら聴く。)
- ②違いを認めあう。違いから学び合う。違いに優劣はない。(非難、否定はしない、されない場。)
- ③分からないことは質問する。(質問は相手への興味関心・尊敬から生まれる)

## このセミナーの5つの課題

1. 「アクティブラーニング」を取り巻く状況を共有する。
  - ① そもそも「アクティブラーニング」って何？
  - ② 「次期の学習指導要領改訂 新学習方法など検討求める諮問」(2014/11/20)の概観から「審議まとめ素案」(2016/5/9)までの変化を理解する。
  - ③ 「アクティブラーニング」の最新の考え方を確認する。
  - ④ワーク 対話とは何か？
  - ⑤学習観の変革
  - ⑥実際的にはどんな時にアクティブラーニングが起きやすいか。
  - ⑦ワーク 教育観・授業観を振り返る
  - ⑧入試制度も大きく変わります。学習指導要領改定とセット。
2. 知識基盤社会と教育改革の必然性を理解し、なぜ「アクティブラーニング」が必要なのか。納得解を得る。
3. 21世紀型能力とはどのような能力かを理解し、私たち大人がどう成長していくか。  
「キー・コンピテンシー」「持続可能な発展のための教育」(ESD)  
「教育は生徒の幸福のためにある。」
4. 協同的な学習の基本構造 明日から使える授業デザイン
5. AL型授業を進めるに当たって
6. 授業をデザインする。AL型授業をデザインしてみましょう。
7. 校内組織作りと気になり始めたこと。

# 1. 「アクティブラーニング」を取り巻く状況を共有する。

## ①そもそも「アクティブラーニング」って何？

ワーク「アクティブラーニングとは何か。」と聞かれたら、どう答えられますか。お書き下さい。1分。

ワークペアの方と説明し合ってください。分からない所は質問。1分です。



### ワーク①

左の図から分かることをペアの方に納得できるように説明してください。

## ②「次期の学習指導要領改訂 新学習方法など検討求める諮問（2014/11/20）の概観。

「新しい時代に必要となる資質・能力の育成に関連して、これまで

①OECD が提唱するキー・コンピテンシーの育成に関する取組

②人間育成を目指す国際バカロレアのカリキュラム

③ユネスコが提唱する持続可能な開発のための教育（ESD）などの取組

④東日本大震災における困難を克服する中で、日本の未来を考えていこうとする新しい教育の取組

「共通しているのは、ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、**学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育**を行い、…

自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探求し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要であるという視点です。」「そのために必要な力を子供たちに育むためには、『何を教えるか』という知識の質や量の改善はもちろんのこと、『どのように学ぶか』という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、

課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。」

○2012年中教審の質的転換答申

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて一生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（2012/8/28）

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」

2014年11月20日

「アクティブ・ラーニング」の定義を確認する。

- 一方向的な講義形式の授業 →
- ①課題の発見と解決に向けて
  - ②主体的・協働的な学習能動的な学習
  - ③能動的な学習（「書く・話す・発表する」溝上）

2015年8月26日 中教審 教育課程企画特別部会『論点整理』

アクティブ・ラーニングを通して目指される学習

- ①習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ②他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- ③子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

2016年5月9日 教育課程部会(高等学校部会)資料8・資質・能力の育成

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「深い学び」が実現できているか。

子供同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

↓

- ①生きて働く知識・技能の習得
- ②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- ③学びを自分の人生や社会の在り方に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

③アクティブ・ラーニングの最新の考え方 ※私の解釈

- ①深い学び ⇒浅い学びから深い学びへ? 単元を見通した授業デザイン
- ②対話的な学び ⇒自己開示と傾聴・質問の対話 授業者と学習者の対話 学習者間の対話
- ③主体的な学び ⇒授業外への自主的発展的な学習 主体性や意欲を引き出す安全安心の場作り

#### ④ワーク 対話とは何か?

雑談・会話・議論・討論とはどう違うか。どんなときに対話と言えるのか。ペアの人と話し合ってください。

#### 対話と会話・議論・討論の違い

会話 (conversation) 語源は「関係を続けること」

議論 (discussion) 語源は「叩く」

討論 (debate) 語源は「戦い」

「議論」も「討論」も相手を打ち負かすためのものという意味合いが強い。

#### 対話は?

##### 対話 dialogue

「ダイアローグ (dialogue)」は

ギリシャ語の「dialogos」「logos」とは、「言葉」という意味⇒「言葉の意味」

「dia」は「～をとおして」

⇒「ことばの意味を通して」

対話の精神が存在すれば、一人でも自分と対話可能。

人々の間を通して流れている「意味の流れ」他者やグループ全体に一種の意味の流れ

⇒何か新たな理解が現れてくる可能性・創造的なもの

何かの意味を共有することは、人々をより建設的につなげる働き

「対話 (dialogue) は語源的には「意味の流れ」を意味する。人が話し合う。その言葉のやり取りの中に、新しい意味が立ち現れてくる。その結果、これまででない自分や相手との関係が生まれる。自分や相手と出会い直すと言ってもいい。それが「対話」だとされる。」

デヴィッド・ボームの『ダイアローグ』(邦訳は英治出版より2007年に刊行)

#### 「対話的」とは

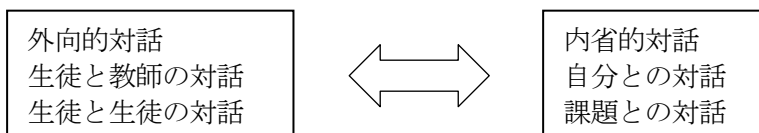
自己開示と傾聴。「分からない」と問えること。

他者の存在を前提に他者の目線をテコに、自らを刷新し続けること。

他者と協同しながら自分を上げるプロセス。

(日本総研 井上岳一)

対話型の授業が教育を変える。傾聴・承認・質問⇒アクティブラーニング型授業



#### 「対話」は他者受容的・共生的

「対話」は相手を理解するためであったり、相手と共に何かを生み出すためのものであったりする他者のリソースを分かち合い、共に成長する。「議論」や「討論」が攻撃的、排他的であるとすれば、「対話」は受容的。

## ⑤学習観の変革

学習は個人の営み・知識は個人の頭の中に構成される勉強は本来、自分ひとりでやる



主体的・協働的に学ぶ学習・学習は社会的な営み 実社会でも知識は相互作用により深まる  
学び合い、教え合うことで確かなものになる →社会構成主義

生徒が主体的・協働的に学ぶ学習するために  
教師の主体性の発揮

指示・命令型から質問対話型へ  
教え込みから問題提示・教示へ

生徒の主体性の発揮

覚え込みから質問対話型へ  
「分からない・もやもやする」  
「私とは考えが違う」と言える。  
「分からない」と言える安心感と勇気  
・質問こそが知への入り口。  
・分からなさ・もやもや・違和感は価値

## ⑥実際的にはどんな時にアクティブラーニングが起きやすいか。

現行の学習指導要領では、「言語活動の充実」「思考力・判断力・表現力の育成」が目玉。文科省のパンフにもアクティブラーニング型授業を分かりやすく表現してあります。

**文科省の動き1** 思考力、判断力、表現力等を育むために  
**例えばこんな言語活動で授業改善**  
～考えを深める場面で～  
一言授業だけでなく...  
ペアで意見を交換する  
付箋を使って話し合う  
ホワイトボードを使って話し合う  
生徒一人一人が自分の考えをもち、他者の考えとの共通点や相違点を意識しながら考えを深めていくような言語活動を充実しましょう。

**文科省の動き2** 思考力、判断力、表現力等を育むために  
**例えばこんな言語活動で授業改善**  
～発表の場面で～  
先生が説明するだけでなく...  
生徒が説明する  
製作物を使って発表する(ポスターセッション)  
立場を決めて討論する  
生徒が自分でまとめた事柄などについて説明したり、相手の立場や考えをお互いに尊重して話し合ったりするような言語活動を充実しましょう。

**文科省の動き2** 思考力、判断力、表現力等を育むために  
**例えばこんな言語活動で授業改善**  
～書く場面で～  
原稿をノートに写すだけでなく...  
レポートにまとめる  
新聞にまとめる  
ICTを活用する  
生徒が集めた情報を整理・分析し、論理的にまとめて表現するような言語活動を充実しましょう。

**教えるから学ぶへ**  
(from teaching to learning)  
一方向的な知識伝達型講義を聴く  
**受動的学習**  
↓  
**書く・話す・発表するなどの能動的な学習活動**  
(認知プロセスの外化)

このスライドは文科省ではなくて鈴木作成。

## ⑦ワーク 教育観・授業観を振り返る

今までのご自分の教育観・授業観を振り返り、アクティブラーニング型授業についてどのように感じられましたか。ご自分の感想をメモしてください。その後ペアチームで意見交換します。1分。

⑧入試制度も大きく変わります。学習指導要領改定とセット。

高校版・全国学力テストである「高等学校基礎学力テスト」（仮称）は2019（平成31）年度から、センター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト」（同）は20（同32）年度から実施。

※基礎学力テストが高校2年生から受けられることになれば、今の小学6年生（2021<平成33>年度以降に大学入学）が両テストの対象となる見通し。

大学入試⇒「考える」力をみる入試

具体的には、

- (1)「教科型」で出題される基礎学力テストでは、各教科の「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価する
- (2)「教科型」に加えて「合教科・科目型」と「総合型」の問題も組み合わせて出題する学力評価テスト（将来的には教科型を廃止）では、「知識・技能」を活用して「思考力・判断力・表現力」を評価する
- (3)各大学の個別選抜では、大学の個性に合わせて小論文や集団討論、面接などを組み合わせ、思考力・判断力・表現力とともに、両テストでは測れない「主体性・多様性・協働性」も評価する

※いずれも知識・技能が軽視されているわけではありませんが、(1)、(2)、(3)と積み重ねることで活用力や主体性を重視。高校段階で必要な知識・技能や思考力・判断力・表現力などをしっかりと身に付け、大学で更に伸ばそうという考え方。

新たな学力観として想定している

「主体性・多様性・協働性」

「思考力・判断力・表現力等」「知識・技能」

※新テストの対象が今の中1からといっても、中学生以上にも無関係ではありません。

各大学の個別試験に関しては、答申を受けて2014（平成26）年度に文部科学省が大学入学者選抜実施要項を見直し、随時導入を開始。新テストのプレテストは早ければ2017（平成29）年度中にも行われます。何より学習指導要領の改訂（高校は2022<平成34>年度入学生から全面実施の見通し）を待たずに新テストを実施しようとするところに、高校・大学の教育改革を急がねばならないという国の危機感が見て取れます。そうした入試改革の先取りに伴って、高校の教育も徐々に変わらざるを得ない状況です。（ベネッセ教育研究所）

大学入試改革の実施スケジュール				年次	小学校	中学校	高校	事項
	高等学校基礎学力テスト	大学入学希望者学力評価テスト	個別選抜	2016				年度内に次期学習指導要領の全容。
2014年度	詳細な制度設計	専門家による検討	多角的な評価を順次導入	2017				大学個別選抜 多角的な入試を順次導入
	↓	↓	↓	2018				
15		実現可能性の検証		2019				高等学校基礎学力テスト試行実施開始
16		↓		2020	全面実施			
17	プレテストを実施	実施内容を公表・プレテストを実施		2021	2年生	全面実施		
18	↓	↓		2022	3年生	2年生	全面実施	
19	新テスト導入	↓		2023	4年生	3年生		高等学校基礎学力テスト導入
20	↓	新テスト導入		2024	5年生	高1		大学入学希望者学力評価テスト導入？
				2025	6年生	高2		
				2026	中1	高3		
				2027	中2			
				2028	中3			

## 2. 工業化社会から知識基盤社会へ 加速度的に変化している社会

### ① 社会情勢の激変 工業化社会から知識基盤社会への大きな変化

- ・ 2050（平成 62）年には日本の人口が 1 億人を割りそう。超高齢化社会へ。
- ・ 国内総生産（GDP）は現在の世界 3 位⇒9 位。経済優先的な価値観から人間性中心の価値観へ。
- ・ シンギュラリティ（技術的特異点）⇒2045 年には人工知能が、人間の知能を超えるという予測。  
「2045 年問題」とは 2045 年にはコンピューターの性能が人間の脳を超えるという予測です。  
この予測はコンピューターチップの性能が 18 ヶ月（1.5 年）毎に 2 倍になると予測した「ムーアの法則」
- ・ 単純作業だけでなく、多様な職種がロボット化され、多くの職業がなくなっていく。

※「知識基盤社会」とは、

「一部の人々が知識を占有してそれを他の人に提供していた時代から、知識がすでに社会のあらゆるところに基盤としてあるような社会。そして、そこから新たな知識を生み出し、加工し、使いこなし、人々に伝えて、共有することによって動いていく社会」高校も大学も、知識をつめ込むだけでなく積極的に使いこなすような力量を身につける必要がある。⇒そのためには何が必要？

※知識基盤社会の特徴

1. 知識には国境がなく、グローバル化が進む。
2. 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる。ポケベル？MD？CD・・・  
今後 30 年で今の 65% の職種がなくなる？
3. 知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる。
4. 性別や年齢を問わず参画することが促進。  
⇒知識基盤社会の時代にあって求められるのは変化に対応する能力。



### ② 文部科学相が 2014 年 11 月の諮問で中教審に

「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」（「アクティブ・ラーニング」）の検討を求めた。  
中央教育審議会が 2014（平成 26）年 12 月にまとめた高大接続改革答申  
「主体性・多様性・協働性」の養成を提言

③ 「生きる力」の育成は急務

「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」の典型である「総合的な学習の時間」「LHR」「学校行事」の時間では不足。



※ダブルバインド（二重拘束）が子どもたちを苦しめる。

「教科科目の授業」では一斉授業をじっと黙って聞いてノートを取るというあり方と矛盾。

④ 生涯学習のデザインは変わった！

- (1) 昔は、「学校時代に身に付けたスキルで仕事をこなした」  
→「学校で学び、社会で仕事をする」
- (2) 現在は、仕事についてからも学び続ける必要がある。  
→学校教育は仕事をしながらの学びへの準備期間。
- (3) 学校教育は卒業後の学びと矛盾しないことが大事。  
→「黙って、じっとして…」は矛盾

リフレクションタイム 気づきを共有しましょう。 INPUT⇒OUTPUT

3. 21世紀型能力とはどのような能力かを理解し、私たち大人がどう成長していくか。

ワーク OECDの「キーコンピテンシー」について説明してください。個人⇒ペア⇒グループ



## ①OECDの「キー・コンピテンシー」とグローバルスタンダードとしての対話力

経済協力開発機構OECDの提唱する3つのキー・コンピテンシー

人生の成功と正常に機能する社会（持続可能な発展）のためにどのような能力が必要になるのか。

### 思慮深さ（反省性） 枠組みの核心。

思慮深い思考と行為。

考えの主体が相手の立場に立つこと。

メタ認知能力（考えることを考える）。

### 1. 相互作用的に道具を用いる

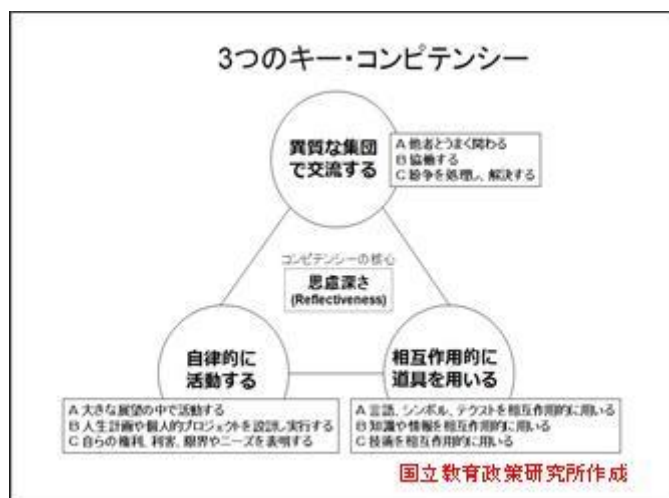
必要な理由：技術を最新のものにし続ける。自分の目的に道具を合わせる。世界と活発な対話をする。相互作用とは、人が周囲の環境と積極的に対話をする事。

### 2. 異質な集団で交流する

必要な理由：多元的社会的多様性に対応する。思いやりの重要性。社会資本の重要性。

### 3. 自律的に活動する

必要な理由：複雑な社会で自分のアイデンティティを実現し、目標を設定する。権利を行使して責任を取る。自分の環境を理解してその働きを知る。



## ②ユネスコの「持続可能な開発のための教育」（ESD）（文部科学省ホームページより）

### ○日本ユネスコ国内委員会

持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育。

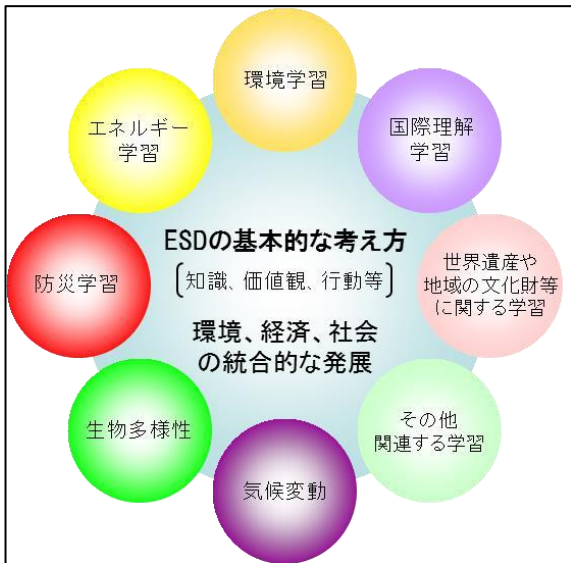
ESDの実施には、特に次の二つの観点が必要。

### ○人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育てること

○他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育てること。そのため、環境、平和や人権等のESDの対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要。

●ESD の概念図

関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組む必要があります。



2. ESD で目指すこと

(1) ESD の目標

- 全ての人が高質の教育の恩恵を享受すること
- 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

(2) 育みたい力

- 持続可能な開発に関する価値観  
(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)
- 体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)
- 代替案の思考力(批判力)
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上

(3) 学び方・教え方

- 「関心の喚起 → 理解の深化 → 参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置付けること
- 単に知識の伝達にとどまらず体験、体感を重視して探求や実践を重視する参加型アプローチをとること
- 活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出すこと

(4) 我が国が優先的に取り組むべき課題

先進国が取り組むべき環境保全を中心とした課題を入り口として、環境、経済、社会の統合的な発展について取り組みつつ、開発途上国を含む世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れた取組を進めていく。

③ 私たち大人がどう成長していくか。

主体性が育つポイント⇒「決める・承認する・考える」

ベネッセ教育総合研究所「小中学生の学びに関する実態調査」(2014<平成26>年)より

社会でも入試でも求められる「思考力・判断力・表現力」を、学校でも家庭でも意識的に養っていくためには、⇒親子の間の信頼関係と、子どもの主体性を育てていくこと。

① まずは子ども自身が「決める」習慣を付けること。

親が「子どもが自分で決める機会を設けるようにしている」家庭の子どもの方が、「勉強に自信がある」割合が高いという結果が出ています。

「決める」習慣⇒小さいことからスモールステップで、例ご飯の時間やお風呂の時間など、どちらに転んでもいいような決断の機会を日常的にたくさんつくるとのこと。

② 「褒める」時のコツは、プロセスを具体的に、本気で褒めること。「決める」と「褒める」を日常的に意識して行うことで、主体性と自己肯定感を高めていきます。

③「考える」ためのコミュニケーションを大事にする。

例えば、社会事象などに「どうしてか？（原因追求）」「どうすればいい？（解決策模索）」の2つの問いを常に頭に置いて話すと、子どもに主体的に考えさせることが可能。

また思春期になると、親とあまり会話をしたくなくなり、会話が単語だけになりがちです。

そのような時は

- ①「私メッセージ」を意識的に使う。
- ②まずは私たちが「主語・動詞・目的語を含んだ文章で子どもに丁寧に話をする。
- ③子どもを見守る。
- ④私たち大人が学び、成長する。

「なぜアクティブラーニングが必要なのか。」私の理由。

教育の目的は生徒の幸福 そのためのアクティブラーニングという視点

「幸福学」の前野隆司さんは、幸せの好循環ループ 4つの因子として、「やりたいことをやればいい」というだけで放置してしまっただけでは、刹那的な快樂の「不幸の悪循環ループ」また、金銭欲、物欲、名誉欲に囚われて「誤った幸せのループ」に陥る危険を回避し、好循環ループに転換する「幸せの4つの因子」

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1) 自己実現と成長  | (達成感・興味関心)  |
| 2) つながりと感謝  | (ポジティブな関係)  |
| 3) まえむきと楽観  | (失敗を肯定する文化) |
| 4) 独立とマイペース | (自己信頼感)     |

アクティブラーニングや反転授業を通して、幸せの4つの因子を「体験を通して」実感することができれば、「幸せの好循環ループ」の方へ導いていくことが可能。

「幸せのメカニズム—実践・幸福学入門」(講談社現代新書、2013年12月慶応大大学院SDM研究科 前野隆司)

生徒が「不幸の悪循環ループ」や、「誤った幸せのループ」に陥ることなく、「幸せの好循環ループ」を回せるようになるにはどうしたらよいか。

「課題を発見し解決に向けて主体的協働的に学ぶ」ということの意味を「社会から要請される人材」という視点ではなく、「子どもや生徒の幸せ」という視点から考える。

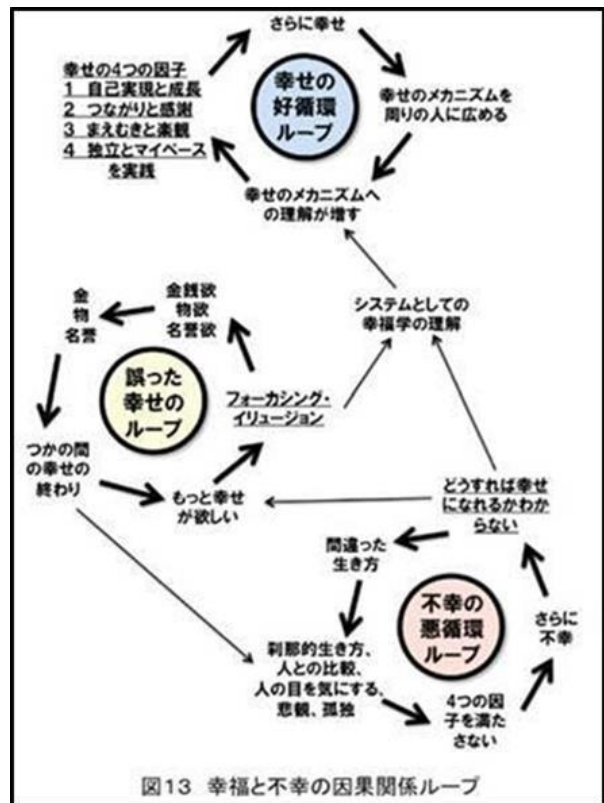
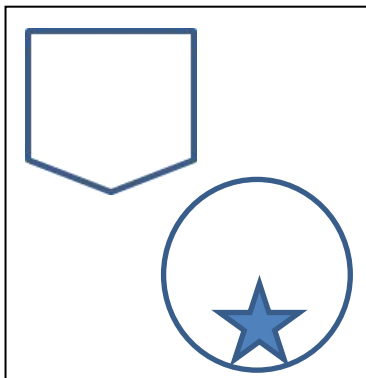


図13 幸福と不幸の因果関係ループ

## 4. 協同的な学習の基本構造 明日から使える授業デザイン

### ○協同学習とは

- ①「集団の仲間全員が成長し高まることがメンバー全員の目標とする」ことを基礎においたすべての教育活動。
- ②「学習集団のメンバー全員の更なる成長を追求することが大事なことだと全員が心から思って学習する。」  
中京大学国際教養学部 杉江修治

### ○つながる力を育む 協同教育の精神（理念）

自らの学びが仲間の役に立つ。そして、仲間の学びが自分の役に立つ。  
自分のためにも仲間のためにも真剣に学ぼう。（学習定着と学力向上。）  
自他共栄の心。切磋琢磨の厳しい関係協同的な人間関係形成能力  
民主・共生社会の基盤となる価値観の醸成。

### ○授業における生徒同士の関係

競争 ← 個別 → 協同

- ・競争的な関係 否定的相互依存関係
- ・協同的な関係 肯定的相互依存関係
- ・個別な関係 相互不干涉

※授業→学習目標の達成にむけて教師によって設定された学習課題に取り組む時間

※教師が出している指示は競争的？協同的？競争が悪、協同が善ではない。どうバランスを取るか。 教師の指示→生徒の中に何が起きているか？

### ○協同学習のポイント

個人思考と集団思考を組み合わせるには 個人思考⇒集団思考⇒個人思考 の流れを作る

個人思考 → 課題に対して自分ひとりで考え、答えやアイデアをつかむ作業

集団思考 → 個々人の考えをグループやクラス全体で共有し、違いを吟味し、共通の理解に達したり解答を導き出したりする

再度個人思考→ 学びや気づきを振り返る

協同学習の目標⇒ひとりでも学べる自律した学習者を育てる。

## ○協同学習の授業プロセス

個人思考 まずは自分の力でやる。(個人の責任)

↓

集団思考 ペアかチームで取り組む。(チームの責任)

↓

クラス全体でシェア(発表・質問・応答)

↓

再度個人思考 まとめ小テスト・振り返り(気づき)

→次回で個人の振り返りをクラスでシェア

## ○ALの基本技法。

「どのように生徒に伝えようか」から「生徒が何を・どのように学ぶか」へのパラダイム転換

### ①ALの種類

#### ・書き出す作業。

自分の思考内容を紙に書き出す。レポート。個人でできる。内省的なAL

課題探究・成果発表・プレゼンなどで、自分がいろいろな形で報告をまとめていくときに有効

#### ・ペアワーク

汎用性が高く、短時間で行える。L I T Eなど。あらゆる教科  
体の向きを相手に変えるだけで可能。簡単な割には効果あり。

#### ・グループワーク

グループで協力する、学びあう、教え合う、メタ認知につながる。

難易度の高い問題にも取り組める。「友たちに聞ける」

「他人に説明できるまで自分が理解しているか確認」

#### ・クラス発表

先生や生徒が皆の前で問題解説をすることをノートに写すだけではなく、生徒どうして質疑応答しあ  
う。メタ認知や再確認が可能。ポスターセッションも同様。

#### ・振り返り(リフレクション)シート

振り返りのポイントは、認知・言語化・考察。授業の最後や単元の最後に、

##### ①学習目標の振り返り

何を学んだか、理解したことは何か、わからなかったこと、疑問に思ったことなど。

##### ②態度的目標の振り返り

どのように学んだか、個人思考、対話的な態度、協同的学習度、貢献度など。

##### ③その他の感想、気づき、教科担当者への意見や質問など。

言語化して、メタ認知

## ○内省型の人間とアクティブラーニング型授業について 「内向型人間の時代」 スーザン・ケイン

話し合いなどの目に見えるアクティブラーニングと内省的な見えにくいアクティブラーニングの両面への視点が必要。協同学習の個人思考は内省的なアクティブラーニングといえる。

## ○AL5スモールステップ

- (1)机は一斉講義式のまま、横を向いてペアワーク
- (2)机は一斉講義式のまま、前列の人が振り向いて4人グループワーク
- (3)机をくっつけて4人グループワーク
- (4)机をくっつけて役割を決めて4人グループワーク
- (5)クラス内で発表。

ワーク

ALの技法について、自分の授業でどのように取り入れられますか。具体的に想定して見て下さい。ペアの人と意見交換して下さい。もうすでにやっていることなどもお話し下さい。

## ○より、深い学びのAL学習内容の深い理解を目指すには

学習内容の理解の質にこだわる。

- 用語・知識の定義や正しい理解にこだわる。
- 他の関連知識とつなげる。
- 他者の考えや見方を踏まえて考えを改善する。

個人の知識世界の構築・再構築のプロセスが介在

## ○学習への深いアプローチ(deep approach learning)とは「意味を求めての学習」

- これまで持っていた知識や経験に関連づけること。
- パターンや重要な原理を探ること。
- 根拠を持ち、それを結論に関連づけること。
- 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること。
- 学びながら成長していることを自覚的に理解すること。
- コース(授業)内容に積極的に関心を持つこと

## ○学習への浅いアプローチ(surface approach learning)とは

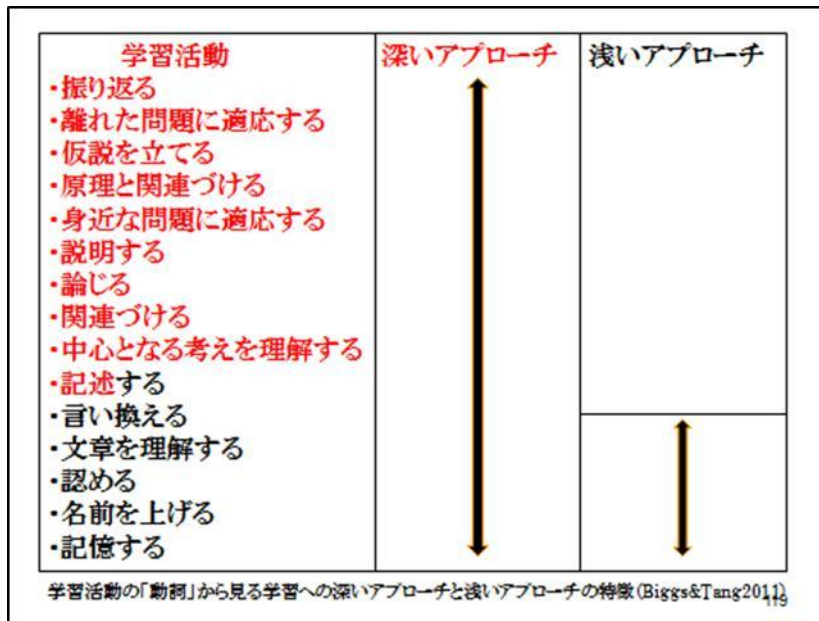
「個別の用語や事実だけに着目して、課題にしっかりコミットすることなく、課題を仕上げようとする学習」。

- コース(授業)を知識と関連づけないこと。
- 事実を棒暗記し、手続きをただ実行する。

目的や戦略を反映させずに勉強すること。  
 過度のプレッシャーを感じ、学習について心配すること。

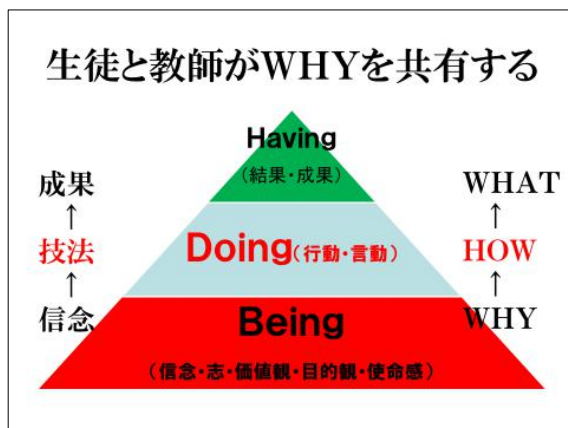
「アクティブラーニングの教授学習パラダイムの転換」 溝上慎一 2014

「学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴 (Biggs&Tang2011)」



### 明日から始めるための 11 のアドバイス

1. 年間の目的・各時間の目標を提示しましょう。
2. タイムテーブルを示す。
3. 態度目標(ルール)を示す。
4. グループワークの際は時間を示す。
5. 途中で話をしない。
6. 各グループと全体の状態は観察し続ける。
7. コンテンツの質問には答えない。話しかけない。
8. 全体を止める必要がある時には、ピタリと止める。
9. 初心者の方はワンウェイのスキルを身に付けましょう。
10. 相互に授業を見に行きましょう。特に他教科を。(管理職の方のメッセージも重要)
11. リフレクションの時間を必ず入れる。



## 5. AL型授業を進めるに当たって

### 導入の前に、同僚と協同しながら

- ①協同的な学習集団をじっくり、1年間かけて育てるという見通しを持つ。
- ②スモールステップでいくか。一気にいくか。
  - 初) 1時間に1回はペアで話し合いタイムを持つ
  - 中) 4人チームで役割を決めて課題に取り組む。
  - 中) クラス全体にチームの考えを発表し、質疑に応じる。
  - 後) ワールドカフェやジグソー法に取り組む。
- ③同僚と授業研究会を1時間限定でやる。

### 導入方法1 年度・学期初めの計画

- ①年度当初、授業開きの日になぜ、アクティブラーニング・協同学習なのかを語る。できれば頭は冷静、心は熱く語る。できれば1時間。質問などがでたら、OK!授業方針を共有できれば大丈夫。
- ②授業方法を説明する。こんな風にやります。  
まず、個人。ペアで話し合いや学び合い。  
チームで・・・ルール・マナーを説明する。
- ③1日目は人間関係作りのワークを1つはやる。  
座席表づくり、「月からの帰還」など。

### 導入方法2 1時間の授業の組み立て方

- ①ワークシートを配布。
- ②授業の目標を伝える 態度的目標と学習目標
- ③この時間の授業の流れを説明する。
- ④ワークシートについて説明や解き方についての講義。
- ⑤個別にワークシートの指定した問題を解く。
- ⑥ペア OR チームでワークシートの課題に取り組む。  
特派員やジグソー法やワールドカフェの技法など。  
机上のシートにメモしながら対話をする。空中戦は△
- ⑦チームで合意を得たものをまとめる。④⑤⑥を繰り返す。
- ⑧授業のまとめと振り返り 小テストや振り返り用紙で  
1時間の授業のまとめを行う。 気づきや学びを言語化して学習定着。

### 導入方法3

- ①AL・協同学習について  
生徒の感想や意向や質問を聞くために 振り返りを書く。⇒授業改善に生かす。
- ②質問には答える。振り返り集をクラスにフィードバックする。すごい効果を発揮する。
- ③必要な道具を準備する。  
どこでもシート (ホワイトボードペーパー)  
マーカー・ストップウォッチ・付箋・カメラなど



## 6. 授業をデザインする。 AL型授業をデザインしてみましょう。

50分の授業の流れを構成する。

- ①授業方針を生徒と共有できるように伝える。
- ②態度的な目標と学習目標を明示して進める。
- ③授業のルールを確認して進める。
- ④AL・協同学習の基本的プロセス

個人思考 まずは自分の力でやる。(個人の責任)

↓

集団思考 ペアかチームで取り組む。(チームの責任)

↓

クラス全体でシェア(発表・質問・応答)

↓

再度個人思考 まとめ小テスト・**振り返り**(気づき)

必ず、振り返りの時間を取る。振り返りのないALはALにあらず…

→次回で個人の振り返りをクラスでシェア

自分の担当科目でデッサンしてみよう。

授業デザイン	校種	学年	クラス	科目
50分				

本日の授業のテーマ

---

態度的目標

学習目標

- ①
- ②
- ③

予想	学習活動	狙い	その他・結果
00			
10			
20			
30			
40			

※自分の授業デザインをガニエの9教授事象から見直してみよう。

「教える技術」としてのロバート・ガニエの9教授事象

※「教える手順」を知れば、誰でもうまく教えられるようになる。

①学習者の注意を引く

「みなさん、ちょっとこれに注目してください。」

↓

②学習の目標を知らせる ←コーチング

「今日はこれを課題として進めましょう。」

↓

③すでに学んだことを思い出させる

「前回までこれを学びましたね。」

↓

④新しい学習内容を提示する

「今回の新しい内容はこれです。」

↓

⑤学習のやり方を説明する

「この課題を解くにはこうします。」

↓

⑥練習をさせる ←AL

「さあ、まずは自分でやってみましょう。後でグループで取り組みます。」

↓

⑦フィードバックを与える ←教師の関わり方

「どうですか。うまくいってますか。」

↓

⑧学習成果を評価する

「今回習ったことを確認してみましょう」

↓

⑨学習したことをほかの場面にも生かせるように促す

「今回習ったことことをどんな場面に生かせるでしょうか。」

「教師力とは3つの能力 ①教える技術 ②授業デザイン力 ③クラス運営力」

「教師のための教える技術」 向後千春 より

## 7. 校内組織作りと気になり始めたこと。

授業改善と組織開発を同時に進める ～持続可能な授業改善を実現するために～

### ◎成功要因

- 1 校長のリーダーシップ+教員のコアチームが不可欠
- 2 教科を超えた研究授業・振り返り会・授業研究週間
- 3 「ほめる」「質問する」だけの「振り返り会」
- 4 流派を超えて自由な授業改革を推奨する。
- 5 「無理はしない」が大原則
- 6 私たち教員の「主体的な学び・協働的な学び」が大事。

- ×校長の牽引強すぎると退職(転勤)後、持続しない。
- ×授業準備に負担が大きいと回数減少、持続できない。
- ×ポリシーのない連続研修会は逆効果。
- ×ベテランを見捨てると組織は分断される。
- ×研修会に校長が出ないと教員は本気にならない。

## 授業の変革運動を進めるために

- ①同僚はもとより生徒と保護者となぜ、このような授業改善を行うのかを共有する。  
地域・社会全体で取り組む。
- ②校内の組織開発を地道に行い、自校の授業改善のアジェンダ（3年程度）を持つ。
- ③何のためのアクティブラーニング授業改善かという目的観をグローバルな視点から共有する。
- ④教師自らが課題を発見し、解決に向けて、主体的協働的に学習する。
- ⑤「誰一人として置き去りにしない」というあり方。

付録 信頼関係を築く対話の方法 ※今から使えるコーチングの基本スキル10

下のスキルを使えるなと思うものを今日から使ってみてください。何か気づきがありましたら、できれば下のアドレスにプチレポートくださると嬉しいです。

傾聴

1. アドバイスの前に、相手の思いを受け止め、事実を質問していく。 バックラッキングと質問
2. 傾聴のために「あいづち・うなずき・繰り返し」の基本スキルを使い、話を引き出す。信頼関係と承認
3. 評価判断を脇に置き、相手の話に集中する。→キーワードをメモしながら、聞く。
4. 沈黙を大切に。沈黙は宝。→「ゆっくり考えればいいよ。」

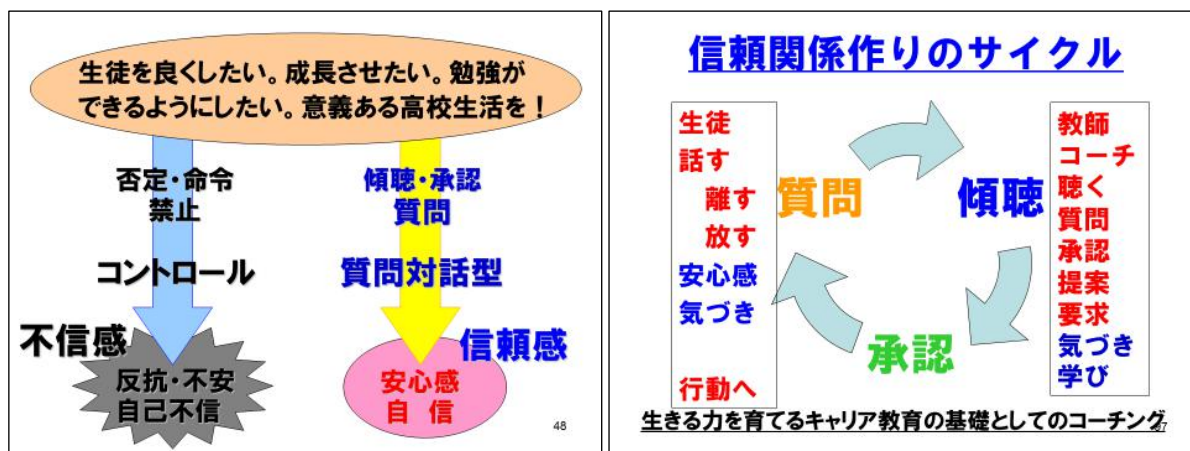
質問

5. 何故から何へ。詰問を質問に。人格と行為を分ける働き。「○○の理由は何？」
6. 「どこから・どこへ・どうやって」というコーチングプロセスをイメージして、面談。  
→現状・リソース→ゴール→手段方法
7. 答えは相手の中にあり、解決する力も相手の中にあるという姿勢と信念で関わり続ける。

承認

8. 評価判断をいれずに事実を承認する言葉がけ。「○○だったね。自分では結果どう思う？」
9. 普段もこちらから、あいさつ、声掛けで信頼関係づくり。存在承認。
10. I(私)メッセージでこちらの思いを素直に伝える。

付録 「私に何か手伝えることありますか。」「今日は話せてよかった。」と感謝を伝える。



## 参考資料

### ○「協同学習入門」杉江修司 ナカニシヤ出版

授業の中で、人間関係を育てながら学力をつけることができる方法が書かれています。理論と実践のための技法が分かりやすく書かれています。この協同学習は、佐藤学先生たちの協同学習とは違い、心理学ベースの協同学習です。すべての先生方に読んでもらいたい1冊です。さらに、協同学習は役割を学ぶので、リーダーとフォロワーが育ちます。それは、キャリア教育につながります。

### ○「先生のためのアイデアブックー協同学習の基本原則とテクニック」協同教育学会

「生徒がさらに効果的に一緒に勉強するのを手助けする原理と技法」を、具体的かつ実践的に、その意義をおさえながら解説する。さらに、協同学習を実践する際に浮かんでくるさまざまな疑問へのヒントや回答を集める。

### ○「学習の輪ー学び合いの協同教育入門」D.W. ジョンソン

この本では、協同的な学びを機能させるために重要な5つの基本的構成要素である、促進的相互依存関係・対面的な相互作用・個人の責任・対人技能や小集団の運営技能集団・改善手続き等といった協同学習の本質に始まり、協同学習の3種類のグループ編成（フォーマル・インフォーマル・ベース）とその役割、（競争や個別学習と比較した）協同学習の成果、協同学習を進めるための技能の作り方、評価の仕方、学校全体で協同学習を進めるビジョン、市民的価値観を育むためのビジョン等、包括的に協同学習をとらえることができる概説書になっている。

### ○「協同学習の技法ー大学教育の手引き」エリザベス パークレイ ナカニシヤ出版

小中高大で活かせる協同学習の導入法・技法。一人ひとりが真剣に考え、対話し、活動する授業へ。なぜ仲間との学び合いが学習効果を高めるのか、実際にどのように行えばよいのか、その授業をどのように評価するのか、具体的に解説。

### ○「アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換」溝上慎一 東信堂

「アクティブラーニングの理論的整理を進めつつ、教授的視座からの学習的視座へのパラダイム転換、すなわち学生が知識だけでなく、現代的な技能・態度(能力)をも身につけ、経験を組織化して成長する、まさに学びと成長のためのアクティブラーニングの推進を力説するとともに、そのためのアクティブラーニング型授業の変革・向上を主唱する理論的・実践的な体系書である。」

### ○「ディープ・アクティブラーニング」松下佳代他 勁草書房

### ○「実践・LTD 話し合い学習法」安永 悟 ナカニシヤ出版

LTD 話し合い学習法は学生の読む力、考える力、話す力を育む理想的で実践的な学習モデル。過去10年にわたる大学や専門学校での実践研究をふまえ、LTD 学習法の実践方法や留意点などを解説。

### ○「大学授業を活性化する方法」杉江 修治・関田 一彦・安永 悟・三宅 なほみ 玉川大学出版

大学の授業を改善し、学生の学ぶ意欲を高めようという取り組みが増えてきている。本書は、自分のめざす授業にあてはまる教授法がないという大学教師にも応用可能な授業の事例を紹介する。教師の個性と目標の立て方の違いを考慮して、実践事例を数多く扱うとともに、その実践を着想した根拠・理論まで詳しく解説している。

### ○「内向的人間の時代」スーザン・ケイン 講談社

ビル・ゲイツもガンジーもウォズニアックもみんな内向型人間だった。内向型の人とは、喋るよりも他人の話を聞き、パーティで騒ぐよりも一人で読書をし、自分を誇示するよりも研究にいそしむことを好む人のことだ。外向型が重視されるアメリカにおいては、内向型の存在感は薄く、出世競争でも不利になりがちだ。本書は、内向型が直面する数々の問題を浮き彫りにするとともに、あまり顧みられないことのない内向型の強みと魅力を明らかにし、その個性を伸ばして生かす方法を模索する。

### ○「この一冊でわかるアクティブラーニング」鈴木建生・小山英樹・峯下隆志 PHP 研究所



様式第 10 (無断複製等禁止の標示)

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、《一般社団法人日本青少年育成協会》が実施した平成28年度「総合的な教師力向上のため調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。